

## 【総評】

5年ぶり10回目を迎える土浦の花火フォトコンテストですが、未だ続いているコロナ禍の影響もあり、これまでに比べると応募者はやや少ない結果となりました。応募者総数は41名で、うち男性は36名、女性は5名であり、出品作品数は112点でした。また県内からの応募が9名に比べて、県外からの応募は32名あり、最北が青森県、最南は京都府からの応募がありました。コロナ禍にもかかわらず、全国各地から土浦市まで花火の撮影にきていただいたことにとっても感激しています。さらに参加者のうち最年少が22歳、最高齢が78歳と、今回も幅広い年代の方々が応募されています。

このような中で入賞した作品は、実力のあるリピーターが多かったこともあり、例年に負けず劣らず素晴らしいものでした。特にシャッターチャンス、構図、色彩の3拍子が揃った作品が上位入賞となりました。また全体の特徴としては、打ち上げ会場から少し離れた場所から撮影した作品が、いつもよりやや多かったように思います。時節柄もあるのかもしれませんが、皆さんそれぞれが撮影場所に工夫をこらしていることが伺えました。

また惜しくも選外だった作品の中には、構図などは素晴らしいのに、色味が偏り、単調になってしまっているものがいくつかありました。バランスが良い花火らしい色合いが出るように、プリントにもこだわってみてください。

ご応募いただいた皆様のおかげで、久しぶりの土浦の花火の記憶をたくさん残すことができ、誠にありがとうございました。これからもこのフォトコンテストがますます盛り上がっていくことを心より願っております。

審査員・写真家 松本 美枝子